

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22年 6月 3日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2779500475		
法人名	社会福祉法人 野のはな		
事業所名	グループホーム 野のはな		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	阪南市和泉鳥取950番7		
自己評価作成日	平成 22年 4月 25日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

### 【事業所基本情報】

① 介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	
② 情報提供票を活用する場合	

① 基本情報リンクURLを記入 ② 別紙情報提供票のとおり

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 近畿マネジメント・サポート・センター
所在地	大阪市東住吉区山坂五丁目5番14-103号
訪問調査日	平成 22年 6月 1日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・認知症状の進行により、自立した生活が困難になった方に対して、1ユニット（9人）だけの家庭的な環境の中で尊厳ある日常生活を営むことができるように支援している。個々に対する時間も多くなり、希望に応じた外出等も毎週行っている。

・週に1度、定例会議を設定し、その中で日々のレクリエーションや行事等、色々アイデアを出し合い実行している・今後もっと地域へと出ていく機会を作っていきたいと考えている。

・健康管理（入浴・食事・排泄等）や日常生活場面での支援はもちろん、機能訓練等も行っている。

・そのような関わりを通じ、ご本人・ご家族ともに安心して生活を送って頂けるグループホームを目指している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

ホームはJR和泉鳥取駅の近くで、開設以来7年目を迎えているが、開所時からの利用者も居る。運営している社会福祉法人の組織の一部門で、毎年、業務監査をして問題点があれば直ちに改善する等、組織内で切磋琢磨して、利用者が自分らしく生き生きとして生活が送れるように努力している。又、利用者の介護記録については、毎週、カンファレンスにて職員一同で集約を行い、介護改善の基本としている。

ホームの建物は新築鉄骨の3階建てで、2、3階を利用しているが、1階はデイサービス部門が利用している。利用者は家族的な雰囲気の中で、経験豊富な職員のケアを受けながら、毎日を楽しみ過ごしておられる

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○ 理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念として「いつの日も自分らしく生き生きと」を掲げている	職員会議は定例で、毎月第3月曜日に開催して、ホーム理念の実践について指導している	
2	2	○ 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として、日常的に交流している	運営推進委員会を中心とし情報を頂き入居者自身の参加出来る範囲で出席させて頂いている。	地域の区長さんのご出席も頂き、2ヶ月ごとに開催している。又、利用者は地域での食事会へも出席している	
3		○ 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や、支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会にご出席の地区役員より情報を頂き、出席させて頂いている	/	/
4	3	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を実施し情報を頂き、行事等に参加させて頂いている。地域食事会にも参加して意見等を活かしている	運営推進会議で情報交流をして、介護に役立たせて頂いている。更に、地区の諸行事にも希望者が参加させて頂いている	
5	4	○ 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	提出書類は出来る限り窓口まで持参し、情報交換を行うことを心がけている	担当者が適宜、市役所へ書類の提出も兼ねて出向き、情報の交換をしている	
6	5	○ 身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて、身体拘束しないケアに取り組んでいる	定期的に会議等の中で話し合いを行い、職員は理解した上で、業務に取り組んでいる	身体拘束については、年間計画に組み込んで研修を行っている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○ 虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス、職員会議等を通じて、一人ひとりの様子を把握するように努力している		
		○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所外研修に参加しその後、事業所内研修として職員にフィードバックし、周知徹底に努めている		
9		○ 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族には電話での詳細連絡をとり、文書も発送し、その際、短信を添えている		
	6	○ 運営に関する利用者、家族等の意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員、並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、家族会等の場を作り、その中でケアマネ、職員から個々の相談を聞き、意見等も頂いている		
11	7	○ 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や、提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	定例会議を設置している	職員と業務上のことは会議で検討しあっている	
12		○ 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている	職員へは個々に面談を実施し、その中で意見も聞き、理解をして頂き配慮も行っている		
	13	○ 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体として毎年業務監査を実施して、必要な指導を行い、また外部・内部研修等で職員のレベルアップへの配慮も行われる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○ 同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	同業者が少ないこともあるが、介護相談員報告会等に参加し、情報等もカンファレンス会議で、職員に伝達している		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○ 初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	ご家族からそれまでの生活を聞き取り、本人のペースに合わせて、徐々に慣れて頂けるのを見守っている		
16		<p>○ 初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	管理者・計画作成者で利用者・ご家族に納得して頂けるよう話し合いを重ね、充分納得して頂けるよう配慮を行っている		
17		<p>○ 初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	原則、3ヶ月に1回の介護計画の見直しを職員一同で実施している		
18		<p>○ 本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を支援される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	職員は利用者と一緒に生活を楽しんで頂けるように努めている。又、職員には内容の漏れがないよう繰り返し指導している		
19		<p>○ 本人と共に過ごし支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	事業所の機能を活かして、本人・ご家族への支援を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や、場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員間の情報を共有し対応している	来訪されるのは殆どがご兄弟ぐらいとなっているので、地域の世話役からの声かけを継続していただけるよう、挨拶や場づくりを心がけている	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	管理者・計画作成担当者・介護職員にて情報を共有し、家庭的な雰囲気崩さぬよう配慮している		
22		○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要内容により連絡をし、その都度、対応している		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○ 思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の日常生活のペースに配慮している	利用者の症状の把握は毎月、職員とのカンファレンスで纏めている	職員は、利用者の言葉だけでなく、表情から本音を察知するような配慮もして欲しい
24		○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カンファレンス・職員会議を通じて、一人ひとりの様子を把握するように努力している		
25		○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の、現状の把握に努めている	高齢化してきている中で、個々に合った過ごし方を日々模索している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○ チームでつくる介護計画とモニタリング	往診を頂いている医師・看護師、また、ご家族とも必要な情報交換を行って、新計画を作成している	利用者の個別の症状を把握することについては、職員との話し合いで纏めている。改善のためのサービスのあり方についても検討している	他の事業者との情報交流により、1年から2年くらいの計画で、更なる改善方策の検討をして欲しい
		本人がより良く暮らすための課題と、ケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している			
27		○ 個別の記録と実戦への反映	職員との日々の介護記録を基に、本人・ご家族、その他関係者との話し合いで、より良い新計画を作成している		
		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている			
28		○ 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	事業所として、可能な限りの支援を行っている		
		本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援や、サービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○ 地域資源との協働	定期的な計画の見直しを行い、作成担当者が中心となり実施している		
		一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	11	○ かかりつけ医の受診診断	毎週、掛かりつけの主治医の往診を受けている	協力医師の定期訪問診療により、利用者に変化があった場合には、早期に対処できている	
		受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			
31		○ 看護職員との協働	主治医・家族と連絡を取り合い、職員も情報を共有している		
		介護職員は、日常の関わりの中で、とらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		<p>○ 入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	病院関係者と情報を交換し、共同生活ができる範囲まで回復した時点で、相談できる体制を整えている			
33	12	<p>○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で出来ることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	利用者・ご家族の希望が第一であり、その為の支援を行う	終末期のあり方については段階ごとに、ご家族や掛かりつけ医師の意向を随時確認し、職員の協力体制を作り上げる		
34		<p>○ 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	必要である研修には、全ての職員に学んでもらい、研修結果を報告してもらう体制を整えている			
35	13	<p>○ 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を、全職員が身に付けると共に、地域との協力体制を築いている</p>	年2回の避難訓練実施緊急時対策マニュアルを作成し、全職員に周知徹底している	避難訓練は毎年実施している、尚、スプリンクラーの設置については計画中である		
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	<p>○ 一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りや、プライバシーを損ねない言葉かけや、対応をしている</p>	尊厳と、プライバシー保護については、職員へ周知徹底している	プライバシーの尊厳について、職員の言葉遣いには特に留意し、仲間同士での話し合いで改善を図っている		
37		<p>○ 利用者の希望の表出や、自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が、思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	利用者ご本人の意向を出来るだけ汲み取って対処している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員側の決まりではなく、一人ひとりのペースに合わせるように取り組んでいる		
		○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみや、おしゃれが出来るように支援している	好きな服装を選んで頂き、季節ごとの配慮（着物など）も行っている		
40	15	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるように工夫している。後片付けは、出来る方のみ一緒に行っている	一緒になじみの味や、旬の食材で食卓を色どり、楽しい食事につなげている、体重管理、医師による食事への指示も頂いている	
			○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		
42		○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や、本人の力に応じた口腔ケアをしている	残存機能を活かし、その方に合った口腔ケアを行っている。週一回の歯科検診も受けている		
		○ 排泄の自立支援 排泄の失敗や、おむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時間を記録し、計を出して声掛けするタイミングの参考にしている		
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や、及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事メニューにも十分配慮し、個々に応じた予防策を講じている		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように、職員の都合で、曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望に沿った入浴回数を行えるように努めている	入浴については、利用者の要望に出来るだけ応じるようにしている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣や、その時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、散歩に出たり体操したりと、生活にメリハリをつけて頂き、リズムを整えるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と、症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者の変化を把握し、主治医との連携も密となっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や、力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、個々の得意分野を積極的に行えるような支援を行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	他施設等の行事に参加したり、利用者の希望で季節にあった場所への外出を行っている	ホーム周辺の散歩は、適宜に行っている	
50		○お金の所持や、使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり、使えるように支援している	現金は所有していない。必要に応じて事務所が立替え、利用者と一緒に支払っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に、本人自らが電話をしたり、手紙のやりとりができるように支援している	3ヶ月に一度、「野のはな便り」を家族に送らせてもらう中で、利用者の作成物を同封したり、可能な方は電話もしている		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な混乱を招くような刺激(音、光、色、広さ、温度など)が無いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地良く過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を出すため、利用者が作成した作品を季節に合わせて、掲示するなどの工夫をしている	担当職員によって工夫され、高齢者向きの飾りが出来ている	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に座りやすいソファを設置し、和める空間作りに努めている		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや、好みのものを活かして、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた物を持ち込んでもらい、好きな物、好きな色等も考慮し、部屋のレイアウトも決めてもらうようにしている	慣れ親しんだ道具類も持ち込んで頂き、ゆっくりくつろげるようにして頂いている	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつ、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している	定期的なアセスメントを行い、日々のケアに活かしている		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	① ほぼ全ての利用者の
			② 利用者の2/3くらいの
			③ 利用者の1/3くらいの
			④ ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	① 毎日ある
			② 数日に1回程度ある
			③ たまにある
			④ ほとんどない
58	利用者は一人ひとりのペースで暮らしている	○	① ほぼ全ての利用者が
			② 利用者の2/3くらいが
			③ 利用者の1/3くらいが
			④ ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	① ほぼ全ての利用者が
			② 利用者の2/3くらいが
			③ 利用者の1/3くらいが
			④ ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		① ほぼ全ての利用者が
		○	② 利用者の2/3くらいが
			③ 利用者の1/3くらいが
			④ ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	① ほぼ全ての利用者が
			② 利用者の2/3くらいが
			③ 利用者の1/3くらいが
			④ ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	① ほぼ全ての利用者が
			② 利用者の2/3くらいが
			③ 利用者の1/3くらいが
			④ ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており、信頼関係ができています	○	① ほぼ全ての家族と
			② 家族の2/3くらいと
			③ 家族の1/3くらいと
			④ ほとんどいない
64	通いの場やグループホームに、馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	① ほぼ毎日のように
			② 数日に1回程度
			③ たまに
			④ ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		① 大いに増えている
		○	② 少しずつ増えている
			③ あまり増えていない
			④ 全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	① ほぼ全ての職員が
			② 職員の2/3くらいが
			③ 職員の1/3くらいが
			④ ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスに、おおむね満足していると思う	○	① ほぼ全ての利用者が
			② 利用者の2/3くらいが
			③ 利用者の1/3くらいが
			④ ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに、おおむね満足していると思う	○	① ほぼ全ての家族が
			② 家族の2/3くらいが
			③ 家族の1/3くらいが
			④ ほとんどいない